

韓国における

「世界佛教学術会議」に出席して

雲井昭善

ソウル東国大学（総長 李瑄根）開学七十周年の記念事業として、去る八月三十一日～九月二日の三日間に亘り、「世界佛教学術会議（World Conference on Buddhism and the Modern World）」が、大学近くのホテル・アンバサダーを会場にして開催された。

この学術会議は、現在、大韓民国が置かれている地理的、社会的、政治的背景の中で、万人平等、慈悲と寛容を建前とする佛教が、現代社会に如何に対応するか、という基本課題に立って、佛教者の姿勢・態度を明確にする点にあったと思われる。この課題に対して、ベルギー、フランス、インド、スリランカ、台湾、アメリカ、カナダ、そして日本からの代表者と韓国佛教学者ら九ヶ国七十名が一堂に会し、公開講演の形式（英、日、韓国語の同時通訳による）で、以下の三分科会に亘って討議を重ねた。

開会式後の第一日目（八月三十一日）、東国大学総長李瑄根博士の基調講演（「佛教と現代社会」）があり、現代における佛教の現実と将来を模索しつつ、佛教者自身の視野を広め、世界救済の決意を固めるためにこの学術会議がもたれたことを熱っぽく語った。そして、三分科会議のもつ意味あいについて、第一分科会は、現代国際社会における理念的混沌の中で佛教がどういう位置づけをもつべきか、を、第二分科会は、現代人のための生活理念としての佛教を、第三分科会は、佛教が現代社会で如何に適応すべきであろうか、という諸問題を柱としていたことを明らかにした。博士の講演要旨は、混乱する現代思想の中で佛教の位置づけを明確にすること。伝統に忠実であるだけではなく、新しい時代を導く能力が今こそ要望される、ということであった。このような発言は、李西翁曹溪宗宗正の祝辞——反目、葛藤、不平の乱れとぶ現代社会の不条理を排し、現実社会に佛国土を建設する必要がある——や、柳基春文教部長官の祝辞——韓国悠久な歴史に寄与した佛教の再確認と、佛教理念を人類の理想実現に向けてよう——などにもうかがわれた。なお、李総長につづいて、「佛教と民主主義」と題してロバート・オリヴァー氏（ペンシルヴァニア大）の特別講演があった。以下、この会議で発表した各国代表者（敬称略）とそのテーマを、分科会の問題提起との関連の中でふれることにしよう。

第一分科会。ここでは、すべての東南アジア各国の佛教界が現実を如何に直視し、かつ対処しようとしているのかをつきとめるために、佛教指導者、佛教者たちの正当な判断を要請した。発表者とテーマ

第一分科・第一小主題

東南アジアの政治的社会的地位における佛教徒の位置づけ

F・ウツタルト(ルーヴァン大)

張 曼濤(中国文化学院大)

第二小主題

中共と佛教 牧田 諦亮(岐阜教育大)

共産主義の挑戦に直面する佛教

鄭 泰赫(東国大)

第三小主題

ここでは、特に暴力の無慈悲精神に対して、佛教の慈悲の精神が如何に対応すべきか、が論及された。すべての存在にひとしくそそがれる佛教の慈悲——意見の異なる者をも包んでゆく——に対して、あるいはすべてに対して寛容を示す佛教の精神は、今日置かれている大韓民国の政治的、地理的環境の中でどう扱えられるか、であった。このテーマに関する発表は、われわれに異常な緊張感をよびおこさせるに十分であった。北の共産主義との対立を肌感じさせるソウルにあって、ややもすれば観念的のうけとめがちなわれわれに迫力を以て訴えてくる発

表が多かった。摂受に立つか折伏に立つか、「今や暴力に対しては折伏あるのみ」と、『勝鬘經』を援用して論じた李箕永氏の熱弁が注目された。

暴力と慈悲 F・ストレング(南メソヂイスト大)

李 箕永(東国大)

なお、参考意見として 恵谷 隆戒(佛教大)

第四小主題

主として、アメリカ、ヨーロッパに兆した佛教研究、並びに

佛教活動とその受容を歴史的に述べた。

第四小主題

西欧における佛教の發生——その事実と意義——

L・ランカスター(カリフォルニア大)

H・デュルト(フランス極東学院法宝義林研究所)

第五小主題

宗派間の反目と佛教の寛容の問題

Y・ヤン(カナダ・マクマスター大)

縁起・因果と寛容

飯田昭太郎(カナダ・ブリティッシュコロンビア大)

次いで第二分科会では、三つの小主題に分かれて討議が重ねられた。第一小主題では、韓国が対処してきた国内外の分裂と反目に解決の一指標ともなるべき視座を要請するために、平和と協調の原理を模索した。

第二分科・第一小主題

平和、協力の原理としての佛教

三枝 充恵 (筑波大)

R・C・ペンディア (インド・デリー大)

第二小主題では、世界経済の趨勢に対して、正法の光を放つために、現代の経済生活と経済のモラルを問うた。

第二小主題

現代の経済行為に対する佛教徒の倫理的視座

奈良 康明 (駒沢大)

徐 潤吉 (東国大)

第三小主題では、官能的社会風潮が瀰漫する現代社会にあつて、佛教はその風潮を的確、明解に評価し、かつ正さねばならないとして、

第三小主題

現代の官能的社会風潮と佛教

佐々木現順 (大谷大)

第四小主題では、現代人の多くが陥り、かつ気づいていない精神的危機を克服するために、禅の実践が必要であると強調する。

第四小主題

禅と現代精神

関口 真大 (大正大)

徐 享保 (東国大)

第五小主題では、佛教が提示する教育理念を明確にしてゆくために、

第五小主題

佛教の教育理念

阿部 正雄 (奈良教育大)

の発表があった。

次いで第三分科会では、五つの小主題に分かれて以下の如き発表と発言があった。

第一小主題では、現代社会にあつて大乘菩薩は如何に、何をなすべきかが問われた。

第三分科・第一小主題

現代社会における大乘菩薩の理念

鎌田 茂雄 (東京大)

第二小主題では、産業文明社会において、四衆は何を如何になすべきか、が課題となり、以下の発表がみられた。

第二小主題

産業文明時代における僧伽の役割

前田 恵学 (愛知学院大)

第三小主題では、労働とは何を意味するのか、生産とは何かを佛教的次元で把える。

第三小主題

寺院における労働の生産性に関する問題

宮林 昭彦 (大正大)

第四小主題は、出家者の戒律について論及する。

第四小主題

現代世界における出家者の戒律に関する問題

金 煥泰 (東国大)

金 雲学 (東国大)

李 戴昌 (東国大)

水野 弘元 (駒沢大)
李 鐘益 (東国大)

第五小主題では、布教の現代化問題を論及した。特に、布教、伝道を強化促進するために何が模索されるか、又、伝道の基本的精神とその具体化が強く要望された。

第五小主題

布教の現代化に関する問題——佛教の伝道活動の改善と促進——

雲井 昭善 (大谷大)
韓 鐘万 (円光大)

三

以上の如く、三分科会十五の小主題をそれぞれの分科会で討議し、内実化していった。なお、発表しなかった人たちの中で、各分科会ごとに発言を求められた。それらの中には、チベットの P・ギャルポ、丁鐘偉 (全南大) 蔡洙翰 (嶺南大) 柳灯徳 (円光大) 宋錫球 (東国大)、徐沈善 (梨花女大) 道文 (総務院) の各氏をはじめ、宗教界、新聞報道関係の代表者たちがあった。

会議の討議が終了した九月二日午後一時〜五時まで、チェアマン李箕永氏司会による各分科討議代表者の報告と総会討議(総括)があり、結論が用意された。閉会式に臨むに当たり、本会議に対する評価と今後の在り方について、各国代表者の発言が求められた。アメリカ側ランカスター氏、インド側バンデイヤ氏、日本側恵谷隆戒氏と雲井昭善(日本学術会議会員として)が、それぞれ発言し、今回の意義ある学術会議の評価と、今後、何らかの形で本会が継続されることを強く要望した。混迷する現代社会、特に南北間の緊張の中で山積する諸問題から、十五の小主題を掲げて討議を重ねたこの学術会議は、現代に対応する佛教者の現実把握を深化したこと、かつ現実把握に立って今後何をなすべきか、への模索が重ねられた点で、大きな取獲があったと言って過言ではない。

なお、評議員会において、本会は今後「国際現代佛教研究院」(The International Institute for the Study of Contemporary Buddhism, I. I. S. C.)として発足し、その本部を東国大学に設けることになったことを附記する。(この稿一部「中外日報」Nos. 22011~13に既報)。(一九七六・十・五)